



む け 無 憂 華

浄土真宗本願寺派正念寺
常陸太田市久米町20-1
発行：正念寺護持会

電話：0294-76-2058
FAX：0294-76-0169

リアルとリモートで ご法事を

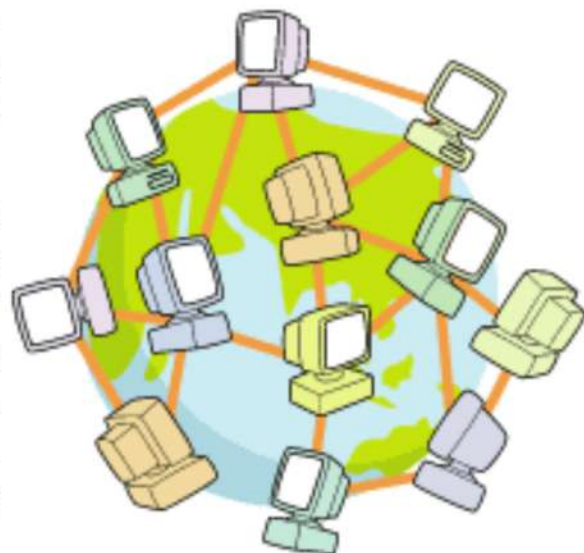
もう二年以上続く感染症の問題で、リモートによる会議などが急激に広まりました。リモートによるご法事も行われるようになり、良くも悪くも色々なところが変わってきました。この感染症もいつかは落ち着いてくることと思いますが、今回変化があったところから、どれくらいの部分が元に戻るのでしょうか。

私たちは、これまでも幾度も大きな変化を経験していつしかそれを克服してきた歴史があります。もちろん近いところの変化、今回の感染症もそうですが、令和元年の台風19号による災害や東日本大震災などはまだまだ被害の爪痕が残っており、完全に元に戻っているわけではありませんが、それでも前を向いて進みつつあります。太平洋戦争、そして明治維新などの大きな変化も、私たちの父の世代やさらにはその祖父・曾祖父の世代は、乗り越えてきました。世界が今回の感染症の問題も、諸行無常の世界であるからこそ、いつか必ず克服される日が来ることでしょう。

現在正念寺では、原則として各法要や各イベントをYoutubeやZoomなどで配信しております。これは、正念寺の本堂は狭いこともあって、感染症の問題で法要に参加される方の人数を制限せざるを得ないために始めたものでした。しかし、リモート配信を行ってみると、思わぬ副産物もありました。それは、それまではご縁のなかった方々が、YoutubeやZoomによる配信の視聴を下さっているということです。花祭りコンサートは、ある介護施設の方々が皆さんで視聴下さり、大変楽しんで下さったということでした。永代経法要は、正念寺のご門徒関係でもなく、全く知らない方が視聴下さったということもございました。大変有り難いことだと感謝しております。今回の感染症の問題が無ければ、リモート配信をするという発想には到っていなかったと思いますので、今回の感染症に頂いたご縁なのか、とも思っております。とは言え、今回の感染症でお亡くなりになった方も沢山いらっしゃいます。今もなお入院されている方や後遺症で苦しむ方もいらっしゃいます。そう考えると、私たちは大変な時代の中にいるのだと、改めて実感させられます。

正念寺では、今後も各種行事のリモート配信を行って行く予定になっております。そして、このリモート配信を通して生まれた、新しいご縁も大切にしていきたいと考えております。それが、正念寺のことは

もちろん、浄土真宗のみ教えがさらに広がる切っ掛けになるものだと考えているからでもあります。正念寺が、そして浄土真宗のみ教えが、今後ともずっと続いていくために出来る方策の一つでもあると考えております。どこにいても、どんなに遠く離れていても、あるいはどんな時でも、阿彌陀様のみ教えに繋がる事が出来る。もしかしたら、そのような時代が直ぐそこに来ているのかもしれない。



(第1回) ※仏教の教えを開かれたお釈迦様(仏陀)のご生涯を書いていきます。

お釈迦様の誕生

お釈迦様が誕生されたのは、今からおよそ2,500年前の事ですが、日本では4月8日と伝えられており、この日を中心に各宗派の寺院や仏教系学校などでは「灌仏会」としてお釈迦様の誕生を祝う集いが開かれます。お釈迦様は、釈迦(シャーキヤ)族の王であるシュッドーダナと、妃のマーヤーの間に生まれました。生まれた場所は、現在のネパール南部に位置する「ルンビニ」という村の花園と言われています。そして、この誕生の時に7歩歩いて「天上天下唯我独尊、三界皆苦吾当安之」あるいは「天上天下唯我独尊、今茲而往生分已盡」と言ったとされていますが、当然実話ではありません。後に、お釈迦様の偉大さを神格化していく中で生まれてきた言葉であろうと考えられます。



お釈迦様誕生の地・ルンビニ

お釈迦様は、生まれた時からお釈迦様と呼ばれていたわけではなく、生まれた時の名前は「ゴータマ・シッダールタ」と付けられたと言われております。「ゴータマ」には「最上の牛」という意味が込められており、「シッダールタ」には「目的を達成する者」という意味が込められた名前です。当時のインドとその周辺は、国全体を統一する国家として

は成立しておらず、数多くの小国家(各部族の国家)が林立していたようです。釈迦族もその一つで、名門であり自尊心が大変強くはあったものの弱小部族(国)だったと伝えられています。そのため釈迦族は、実質はコーサラ国の属国という状況だったと言われており、そのほかにも周辺にはマガダ国など強力な国がありました。

ゴータマ・シッダールタは、生まれて7日後には母親のマーヤーを亡くし、その後はマーヤーの妹のマハープラジャーパティによって育てられました。ゴータマ・シッダールタは、シュッドーダナ王たちの期待を一身に集め、カピラ城に2つの専用宮殿や贅沢な衣服・世話係・先生などを与えられ、将来の国王としての教養や体力を身につけたと言われております。しかし、ゴータマ・シッダールタは若い頃から人生の無常や苦を感じていたと言われており、ゴータマ・シッダールタが出家を志す切っ掛けになったと言われていた逸話が、四門出遊と呼ばれる故事で、シュッドーダナは無常や苦を感じ塞ぎ込みがちな王子の気晴らしの為に城の周りを散歩させようとしてしました。ゴータマ・シッダールタは、ある時カピラ城の東門から出ると、足もともおぼつかなくなった老人に会い、自分もいつかあぁなってしまうのか、と愕然として城に戻ってしまいます。またある時は、南門から出ると、病に冒された人に会い自分もいつか病気にかかって苦しむのかと嘆き、城に戻ってしまいました。またある時は、西門から出ると亡くなった人を送る葬列に出会い、自分もいつか死んでしまうのか、と絶望して城に戻ってしまいます。最後に北門から出た時に、一人の沙門(修行僧)に出会い世俗の苦や汚れを離れた沙門の清らかな姿を見て、出家の意志を持つようになったと言われております。

王子は、16歳か19歳の頃に従妹のヤショーダラー姫と結婚しており、この頃だと思われていますが、ラーフラという息子をもうけました。しかし、ラーフラが生まれた後(ゴータマ・シッダールタ29歳の時)の深夜、王子は城を抜け出し、出家をすることとなりました。

(次号へ続く)

参れ～寺カード10ポイント達成報告



茅根 ゆかり様 泉 英輝様

花祭りコンサートご報告

花祭りコンサートは、4月10日(日)に開催され、38名の方のご参加がありました。また、ZoomやYouTubeによるリモート配信で視聴された方もいらっしゃいまして、コロナ禍の中とは言え、大変賑やかに出来ました。

今回のコンサートも、無料ではありますが、茨城新聞社の「愛の募金」を通じて寄付をさせていただくことをお話しいたしましたところ、おかげさまで今回も46,701円を4月12日に寄付させていただきました。



『愛の募金』領収書 № 210097

正念寺 様

一金 46,701 円也

但し、当法人が行う文化福祉事業のための寄付金
上記正にお振りしました

2022 年 4 月 12 日

水戸市笠原町978-25
茨城県開発公社

☎029 (239) 300
公益財団法人 茨城新聞文化福祉事業団

理事長 小田部

抜者印



感謝録

ご寄付を戴きました事に感謝を込めてご報告させていただきます。

釋清文永代経として

金 10万円

小澤 良明様

真光院釋超発永代経として

金 20万円

片岡 満様



これからの行事予定

8月16日(火)11時～	久遠廟法要
8月30日(火)8時～	清掃奉仕
9月23日(金)11時～	久遠廟法要
10月25日(火)9時～	清掃奉仕
11月8日(火)13時半～	仏具磨き
11月18日(金)13時半～	報恩講法要
11月19日(土)13時半～	報恩講法要
11月29日(火)9時～	清掃奉仕

ホームページのご案内

正念寺ホームページには、今までの寺報やちょっとした仏教の話、寺の縁起などもあります。常陸太田市 正念寺で検索をかけていただくとたどり着けます。

スマートフォンなどからは、右記QRコードを読み込んでください。



仏教の小窓

ご法事は、何故するのでしょうか？お亡くなりになった方の供養のため？本当にそうでしょうか？

私たちは、生きている以上いつか必ずこの世にお別れをする時がやってきます。それは、先にお亡くなりになったご先祖の方はもちろん、私も例外なく必ずお別れをする時が来るのです。そして、その時には楽しかったことも苦しかったことも、丸ごとひっくるめて、自分の生きてきた人生として受け止めて行かなければなりません。

私たちは、誰でも死んでいく。そのことは、誰でも知っている事実です。しかし、普段はそのことを考えないで生きていることでしょうか。ですから、身近で大切な人の死を通して、改めていのちの現実に向き合っていくのです。

私が、身近な人の死を通して、いのちの現実に向き合った時、その人のいのちを通して、私が故人のメッセージを受け取っていく場所、それがご葬儀から始まり、中陰や百か日・年忌のご法事なのではないでしょうか。



住職雑感

平成23年7月発行の64号からカラー印刷を取り入れて来ましたので、もう10年以上になりました。そして昨年からは、横書きへレイアウトも変更し、無憂華と言う紙名も取り入れました。色々試行錯誤しながらやっておりますが、最近では年3回の発行も何とか定着して参りました。

知り合いの寺院では、毎月寺報を発行しているところもございます。年3回を辛うじてこなしている身としては、本当に頭が下がる思いです。

継続は力なり、という言葉があります。この言葉は、言ってみれば、それだけ継続し続けるという事が難しいということでもあります。

この「無憂華」も少しずつ変化しながらも92号まで続いてきました。今後も、次の100号を目指して、さらには150号200号と続くことを願っております。感染症等でご縁が薄れている今だからこそ、せめての気持ちを込めて。